

## 新市としての合併の意義

**生活圏としての一体性**  
(地域住民の生活圏の拡がりに対応したまちづくり)

**行財政基盤の確立**  
(住民ニーズに総合的に対応できる行財政基盤の確立)

与えられる都市づくりから  
自立する都市づくりへ転換

知恵と実行力で決定し  
責任を負う経営構造の確立

**都市経営の確立**  
(個性豊かな地域社会の創造) (地域の一体性の確立)



## 新市建設の基本理念

### ● 地域特性を尊重した都市づくり

本地域の多様で魅力的な地域特性を大切にしながら、それらのネットワーク化を進め、相互の地域魅力を高め、一体としてさらに素晴らしい地域魅力を創出します。

### ● 共生の都市づくり

自然と都市、人と人、人と自然が共生した都市づくりや、地域と地域がそれぞれの個性を活かしあいながら、一体的な都市魅力が生まれる都市づくりを進めます。

### ● 住民を基点とした都市づくり

都市づくりの主体は、地域住民であり、住民の視点を出発点とすることが大切です。また、これからの地方分権型社会において重要となる住民自治の充実のために、住民の意欲と主体的な取り組みを活かす都市づくりを進めます。

### ● 合併効果を活かした都市づくり

21世紀の分権型社会の実現を展望し、合併効果を活かした都市として、中核市の実現を図ります。また、その実現により、県南地域のリーダーとして、地域発展に取り組む自立した都市づくりを進めます。

## 新市のめざす都市像

一極集中型から多極分散型、ネットワーク型などの都市形態への転換

**教育文化や保健福祉等の暮らしの分野**  
市民一人ひとりが、真に豊かさを実感できる暮らしが営まれる都市をめざします

**道路や上下水道等の都市基盤・生活基盤の分野**  
豊かな暮らしを実感できる身近な生活空間・都市空間が整備された美しい都市をめざします

**1次2次3次の産業振興と雇用促進の分野**  
多様な働き方を選択できる雇用環境を創出・確保し、持続的な社会発展の基盤となる産業振興をめざします

**県南の中核都市としての都市機能の分野**  
魅力ある県南地域のリーダーとして、地域の発展に中核的な役割を果たす都市をめざします

## 中核市の誕生により新市の目指す都市像を実現します

中核市は、国がこれまでのまちづくりを担うにふさわしいモデル的都市として、人口30万人以上の都市を指定するものです。1市4町が合併すると、「中核市」が可能になります。住民に身近な事務権限が移譲され、財政基盤も一般の市より手厚くされています。



### 中核市になるメリット

#### ① 住民サービスの向上

申請の受付は「市や町」、許認可は「県」といったこれまでの事務処理の一部が、移譲された事務は、受付から許認可まで市でできるため、事務の簡素化と時間短縮になります。

#### ② 地域の特性に応じたまちづくりの実現

都市計画等についての許認可が市でできるようになることで、開発や土地利用、環境保全などの面で、個性豊かなまちづくりを進めることができます。

#### ③ 都市のイメージアップへの期待

県庁所在地などと同様の都市としてのイメージアップが図られ、様々な情報発信が容易となるだけでなく、都市規模を生かして企業・研究機関などの誘致や新たな観光ルートの開拓なども可能になります。

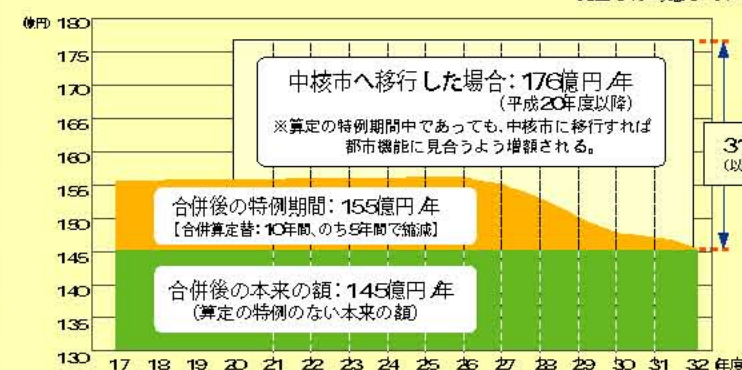
#### ④ 将来的に安定した財源確保が可能に

地方(普通)交付税は、今後小さな自治体に厳しい制度に見直されていく予定ですが、中核市ではその影響をほとんど受けないため、合併後、一定規模の財源を確保することができます。

### 中核市移行の財政効果

合併後の地方(普通)交付税算定の特例期間及び中核市移行による試算額推移

※グラフの交付税試算額は、平成15年度ベースで算定したものであり、交付税制度の見直しは考慮していない。



### 中核市の権限移譲事務

中核市は、保健所を設置することになるため、保健所設置市が行う事務などを処理することになります。

[身体障害者手帳の交付・飲食店営業等の許可など]

また、地域の主体的なまちづくりを行うために必要な事務を処理することになります。

[都市計画法に基づく開発行為許可など]